

みなみじゅうじせい



【学校教育目標】笑顔いっぱい

～やる気・やさしさ・根気強さのある みなみっ子の育成を図る～

長崎市立南長崎小学校 校長 宇土 衛

被爆体験講話「たえちゃんの8月9日」

今年度、講師に「家族証言者」の原田真美さんをお迎えして、被爆体験講話を開催しました。被爆者の方々から受け継いだ体験を語ってくださる、被爆者の家族や交流のある方のことを「家族証言者」とお呼びします。

原田さんは、令和2年から「家族証言者」として活動されています。原田さんの被爆体験講話の特徴は、ご自身の義母であられる妙子さんの体験を、紙芝居で伝える点です。小学生にも、原爆の恐ろしさはもとより、平和の大切さを知ってもらいたいと、紙芝居を制作されたのだそうです。今回、3年生から6年生を対象として講話を伺いました。どの子どもとても熱心に聞き入っており、質問タイムでは、当時のたえちゃんの様子や原爆について、たくさんの質問や感想が聞かれ、講話後の振り返りのシートには、感想がびっしり書かれていました。また、児童代表として5年生の宮脇成さんと池田耀介さんが、素晴らしい挨拶を行いました。

被爆81年を迎え、被爆された方々はご高齢となり、そのお話を直接うかがう機会は確実に減ってきています。今回のような「家族証言者」や「交流証言者」と呼ばれる方々による講話は大変意義あることだと考えます。今世界中で、戦争や紛争が起きています。ご家庭でも今一度、私たちは「平和都市・長崎市民」であることをふまえ「平和」の大切さについて語り合ってください。



子どもたちのあたたかい言葉に感激です！

実は、先週1週間、お休みをいただき長崎大学病院に入院し、半月板切除の手術を受けました。（運動会では、松葉杖を使って動いていました。保護者の皆さんからも「大丈夫ですか？」とのお声がけをたくさんいただきました。）

退院後、「校長先生大丈夫ですか？」「松葉杖は？」「お大事にしてください！」といった励ましの言葉を、たくさん子どもたちからもらいました。もう、うれしくてうれしくて！あらためて、南長崎小の子どもたちは優しい心根をもった、いい子たちだな～！と感じたところです。

きっとご家庭でも、そんな優しい言葉かけをされているんだろうなと思いました。